



ECOLOGY トヨタは、「トータルクリーン」をめざしています。

「トータルクリーン」を基本理念に、環境に配慮したクルマづくりを進めています。生産から廃棄にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携させ、クリーンなクルマづくりをめざします。さまざまな環境目標を、バランスを取りながら達成し、総合的に環境性能の向上を図ります。

*1. Eco-VAS [エコパス] : Eco-Vehicle Assessment System。車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃棄にいたるLCA (ライフサイクルアセスメント) の考え方を踏まえた環境目標値を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システムです。

■地球温暖化を防ぐために

燃費向上 温室効果ガスであるCO₂排出量の低減をめざして、クリーンディーゼルエンジン(1GD-FTV)、6速オートマチック(6 Super ECT)などの採用により、徹底した燃費の向上を図っています。

省冷媒化 エアコンの冷媒には、オゾン層を破壊しない新冷媒HFO-1234yfを採用しています。


■環境負荷物質を削減するために

内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンなどの揮発性有機化合物(VOC^{*2})の発生量を抑制。車室内の匂いや刺激臭を軽減するとともに、厚生労働省が定めている「室内濃度指針値」^{*3}を下回るレベルとし、業界自主目標を達成。車室内空気質の快適性に配慮しました。

*2. VOC : Volatile Organic Compounds

*3. 厚生労働省が2002年1月に定めた指定物質で自動車に関する物質の指針値。

トヨタ グランエース 環境仕様

車両仕様	車両型式	3DA-GDH303W		
燃料消費率		燃料消費率 ^{※1} (国土交通省審査値) km/L	10.0	
		CO ₂ 排出量 g/km	259	
		参考	「平成27年度燃費基準 ^{※2} 」をクリアしています。	
		主要燃費改善対策	アイドリングストップ装置、直噴エンジン、電子制御式燃料噴射、過給器、インタークーラー、高圧噴射、充電制御	
排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)	平成30年排出ガス規制適合 ^{※3}		
	認定レベル値 または適合規制値(g/km)	CO/NMHC/Nox/PM	0.63/0.024/0.15/0.005	
車外騒音	加速 / 定常 / 近接	dB	72(規制値) / - / 70	
冷媒の種類(GWP値 ^{※4}) / 使用量		g	HFO-1234yf(1 ^{※5}) / 950	
環境負荷物質削減	鉛	自工会自主目標達成(1996年比1/10以下 ^{※6})		
	水銀	自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止 ^{※7})		
	カドミウム	自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)		
	六価クロム	自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)		
車室内VOC		自工会自主目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)		
リサイクル関係	リサイクルし易い材料を使用した部品	TSOP ^{※8} TPO ^{※9}	フロント・リヤバンパー、インストルメントパネルなど SRSカーテンシールドエアバッグ、ガラスラン、ピラーガーニッシュなど	
	樹脂、ゴム部品への材料表示		あり	
	リサイクル材の使用	再生フェルト	ダッシュサイレンサー	
		再生PET、再生PP、反毛	フロアカーペット	

※1. 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。
 ※2. 省エネ法に基づき定められている燃費目標基準 ※3. WLTCモード走行 ※4. GWP: Global Warming Potential(地球温暖化係数) ※5. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められております。 ※6. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。 ※7. 交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージランプ、室内蛍光灯)を除く。 ※8. TSOP: Toyota Super Olefin Polymer ※9. TPO: Thermo Plastic Olefin